

事業報告書（令和 7 年度）

事業名 「子どもと大人が学びあう」岡山市立蛭明小学校の郷土史(平和)学習を通して

団体名 蛭明小学校区の学びを考える会

担当者名 三田善雄

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

【郷土史を学ぶ（1 学期）】

2025/6/10 蛭明の歴史をもっと知ろう！！史跡巡りツアー（8:45 - 12:00）

参加者：30 名（6 年児童、教員、講師、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員等）

大森遺跡 講師：水川慶紀さん（岡山市埋蔵文化財センター学芸員）



本校の体育館の下から出土した縄文時代(約 3000 年前)の石器や土器をご持参いただき、児童それぞれが実際に手に持ちながら、当地での古の人々の生活に思いを馳せた。

大塚古墳 講師：安川満さん（岡山市埋蔵文化財センター学芸員・所長）



わかりやすい資料をご準備いただき、古墳の考古学的な特徴などをご説明いただく。
※学校支援ボランティアが事前に草刈り

鼓神社 講師：太田勇さん（学運協委員・日近地区連合町内会長）



お得意の絵画を活用され、祀られている神様や宝塔(重要文化財)、桃太郎伝説などについて、わかりやすくご説明いただく。
※講師のための勉強で知ることも多かった(太田さん談)

緒方洪庵生誕地 講師：田中浩志さん（岡山市近水観光振興会）



大雨の中、緒方洪庵像の前で、生い立ちからその功績などについて熱心にご説明いただく。
※児童は夏休みに作文づくりに挑戦！

【児童感想】

- ・古墳は、入口は狭いけど、中は思ったより広かった。昔の人は、重たい石をどう持つかなどを考えてすごい。
- ・古墳にもいろいろな形があるので、調べてみたい。
- ・この地域に、縄文時代からの歴史があってびっくりした。

【郷土史から学ぶ～戦争と平和 (2・3 学期)】

9/4 岡山空襲学習(オンライン) 講師：木村崇史さん (岡山空襲展示室学芸員)

参加者：29 名 (児童、教員、学運協委員、公民館、推進員)



- ・岡山空襲がおこった背景、空襲の概要など体系的な説明
 - ・ロシアのウクライナ侵攻と太平洋戦争の期間(日数)の比較
- ※足守公民館だより 188 号に掲載 (公民館：戦後 80 年事業)
※オンラインでの講義は本校で初めて実施 (R5 年度から)

9/17 地域の戦争の記憶をたどる①「学区内の戦争遺物」講師：柏野忍さん (郷土史愛好家)

参加者：29 名 (児童、教員、学運協委員、公民館、推進員)



- ・旧大井小学校区：警防団機庫、防空監視哨跡など
 - ・旧高田小学校区：大原美術館の絵画疎開
 - ・旧福谷小学校区：松根油工場と予科練生の接待
- ※足守公民館だより 189 号に掲載 (公民館：戦後 80 年事業)

9/18 地域の戦争の記憶をたどる② - 1 紹介者：三田善雄さん (地域学校協働活動推進員)

参加者：32 名 (児童、教員、学運協委員、PTA、公民館、推進員)



- 【伊賀節子さんの兄：伊賀英雄さんの手文庫(ご遺品)の紹介】**
- ・ご遺品(英雄さんの書)を使った対話型鑑賞型 WS
 - ・NHK 岡山ニュース「出征した兄の木箱」映像視聴
 - ・手文庫提示(先輩の学びが手文庫開帳につながった説明)



- 【大原美術館の絵画疎開(岡山空襲翌日より開始)の紹介】**
- ・大原美術館に展示されている絵画「アルプスの真昼」を使った対話型鑑賞型 WS
 - ・NHK 岡山ニュース「大原美術館の絵画疎開」映像視聴



- 【文学創造都市オデーサ(ウクライナ):漫画「戦争日記」の紹介】**
- ・表紙のイラストを使った対話型鑑賞型 WS
 - ・文学創造都市おかやま HP にアクセスし、漫画の内容「オデーサにある美術館の展示品の疎開」を紹介



児童とともに、大人たちも、地域学校協働活動として掘り起こしてきた郷土史「兄の手文庫」・「名画疎開」、漫画「戦争日記」をリソースにしたプログラムに参加し学びあう。
※児童はタブレット(アプリ)を使った意見交換も実施
※足守公民館だより 189 号に掲載(公民館：戦後 80 年事業)

9/22 地域の戦争の記憶をたどる② - 2 文学創造都市オデーサ：漫画「戦争日記」を読む

参加者：24名（児童、教員）



・児童各自がグロムブックを使い漫画「戦争日記」（テーマ：オデーサの美術館の展示品の疎開）を読み、意見交換。

※漫画は日本語訳を入れJPEG化。

※ユネスコスクール活動として、R6年度より文学創造都市おかやま事業に参加している。

【児童感想】

- ・ロシアとウクライナの戦争が続いていることが他人事じゃないみたいと感じた。
- ・今自分たちにできることはまた日本が戦争しようとしたらやめようと言う事です。
- ・戦争を経験した人たちがだんだん減っていつているから、少しでも次の人に、戦争はしてはいけないこととか、戦争の怖さなどをおしえられるように、たくさんのお話を頭の中に入れておきたいと思いました。

※児童感想(HP掲載分)は、市の文学創造都市担当から、オデーサの担当に届けていただく。

※卒業式までに市の担当から、オデーサ担当からのメッセージ(返信)をご紹介いただく予定。

10/10 地域の戦争の記憶をたどる③「太平洋戦争・岡山空襲体験談」

語り部：明楽千恵子さん 参加者：26名(児童、教員、推進員)※日程変更あり



- ・「戦争は絶対にしてはいけない」との強い思いを伝えていただく。
- ・絵「私が見た岡山のくうしゅう」は明楽さんの直筆(伝える工夫)

11/18 講演動画視聴「大原美術館と絵画疎開」柳沢秀行さん(大原美術館学芸統括)



- ・2022/11/11に事前学習のためにご来校いただいた際の講演動画を、事前学習として毎年見ている。

※同日に疎開先の土蔵(日近地区)も視察

11/26 語らい座大原本邸・大原美術館訪問 (10:00 - 14:00)

参加者：32名（児童、教員、学運協委員、学校支援ボラ、公民館、推進員）

- ・語らい座大原本邸 講話「大原家とSDGs」講師:門利博子さん(語らい座大原本邸館長)

【大原孫三郎について】困っている人にお金や物を寄付する「救貧」だけでなく、困っている人自らが生活に困らないように工夫することが前もってできるようになる「防貧」へと支援の方法を発展させていった。(SDGs1：貧困をなくそう)

【大原美術館について】お金がなくて行けない人へ学費を支援していた孫三郎。美術館も日本で絵を学ぶ学生たちの応援からはじまった。(SDGs4：質の高い教育)

【まとめ】今度は今を生きる私たちが何ができるかを考える番。これからも平和を守り続けることで、未来の人にもすばらしい作品の数々を見てもらえたら。(持続可能な社会づくりの担い手)



門利館長の講話



副館長による館内案内

・大原美術館訪問 WS「対話型鑑賞」体験 ファシリテーター：寺元静香学芸員(他 2 名)

※3 グループに分かれ対話型鑑賞を体験。地域のみなさんはその様子をまわりで見学。

【ふりかえり】作品づくりは「めんどくさいことでは？」という WS 時の児童の発話(レオン・フレデリックの作品『万有は死に帰す、されど神の愛は万有をして蘇らしめん』が 25 年もの歳月をかけて描かれたとの解説に対して)に、「それでも伝えたい」作者の思いへ想像を膨らませることの大切さなどもご指摘いただく。(その後の児童の感想から、児童自身の絵画への向き合い方が大きく変わったことを確認できた)



寺元学芸員からの事前説明



地域のみなさんとも意見交換

※足守公民館だより 190 号に掲載 (公民館：戦後 80 年事業)

【児童感想】

- ・孫三郎は SDGs のような社会問題について考えていた。だから次は自分たちが考える番だと思う。
- ・SDGs、その時代にはなかったはずなのに、一つ目や四つ目の目標のような社会問題を見つけ、解決しようと取り組んだ大原さんの世の中の観察力と行動がすさまじいなと思いました。
- ・大原さんのような大きな事はできないだろうけど、それでも小さな事からコツコツと社会のためになりそうなことをやっていきたい。
- ・絵画が疎開から帰ってきた時の嬉しさはどんな感じだったんだろう。
- ・たいわがたかんしょうをして、みるたびにいけんが変わったり、どんどんと新しいいけんがでたりして、げいじゅつは、おくが深いと思いました。
- ・なにを描いているかわからない絵など少しありました。その絵について少し考えてみるとかく物は自由だし自分らしさが出るようになる絵だし、なにかつたえたかったのかな？と思いました。

瓜痕と記憶
 今も残っている戦時の爪痕と記憶
 岡山空襲被害は一九四五年の六月三十一日の深夜二時四十三分にはアメリカ軍の爆撃機B-29が百三十九機来て焼夷弾を落としました。メロン団地の近くには、当時の射撃場として使われていた跡や、中央町の田町橋も戦争の被害で焼け残っているものです。そして語り部の明衆さんの話から、戦争中の食糧は、イリコやサツマイモ、南京、麦飯などとても分目しかたそうです。そしてまた小さなため、とてもこの経馬をされた方もいました。この戦争でたくさんの命がとくな

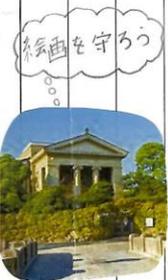


編集者
 岡山市立蛍明小学校



戦争は、絶対にしてはいけないことだ、戦争をすることでみんなが悲しみます。そして、今あたりまで争中、ありえない生活でした。私は、今の生活すべてにありがたみを持って生きなければいけません。戦争中の大原美術館の静かな戦い
 大原美術館は、一九三四年に旧島虎次郎の思いに元付した大原孫三郎が創設しました。しかし、その十五年後に、岡山空襲被害があり、いつ大原美術館の周辺が真っ赤になるかわからない状態に

になりました。そのため、ここに美術品を置いておけないと判断し、目近にある農家さんの家の蔵にそかいました。美術館が絵画を守らなければいけない理由は、文化財や芸術作品は一度失われると二度と取り戻せない人類の宝であるという認識と、未来の世代に文化を引きつぎ、平和な社会を再建するための精神的な拠り所とするという二つの理由です。岡山空襲被害中の大原美術館は、いづこちらに来るのかわからない絵画が焼ける危機になるかわからないドキドキの中で、そかいかや、大原美術館の運営をしていて、どれだけのことがあっても、この絵画を受けつがなければいけない気持ちがあっても伝わってきました。



SDGs
 大原孫三郎が取り組んだSDGs
 大原孫三郎は、当時存在しないSDGsの中の目標1分目国をなくそう目標4質の高い教育をみんなに達成するための取り組みをしていました。
 大原孫三郎は、SDGsのような目標がない中でも、その課題に向けて動いていて、とてもいい人だなと思います。
 まとめ・編集後記
 今、戦争から七十年の時がたつて、戦時の苦しさや、厳しさを知らない人がほとんどだから、この危機を知ったことを忘れることを求めたい。世代や他の大人の人にもつなげていかなければいけないなと思います。私たちが今している生活は、私たちにとっては当たり前だけど、戦争中とは全然違う生活で、戦争中は、とても苦しい生活をしてきた人だから、私たちが今している生活にありがたみをもつ生活をしたいなと思います。

世界大戦

新聞

編集者
岡山市立虫明小学校

大原の苦難

絵画疎開

一九四五年、突如として始まった岡山空襲。
その裏では文化を守るために動く人々がいきました。
一九三〇年に大原孫三郎とその友人、児島虎次郎によって創設された大原美術館。そこでは、空襲から文化を守るための絵画疎開が空襲の翌日である6月30日と7月3日に行われていました。
当時の日近村現在は虫明学区の民家の蔵に疎開にうってつけの場所を見つけた大原美術館は、もうすぐ起こるであろう空襲から逃れるため早速疎開を行いました。その直前まで美術館は絵画を公開しました。
その疎開を行ったおかげで、クロード・モネやエルグレコたちの作品は残ることができた。

よみがえる

戦争の記憶



↓大原美術館

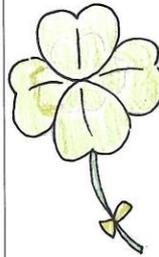


一九四四年第二次世界大戦、天千洋戦争が始まりました。この戦争では数多くの人々が亡くなり、日本は多大な損害を受け、敗戦しました。
そんな苦痛な戦争の記憶を、私たちは明泉さんから聞きました。
戦時中、米などは国にとりまわらなければならぬため、サツマイモや南京で、それをお粥に

きました。そんな文化を守った虫明学区に改めてほこりをもちたいと思います。

したり、お雑炊にしたりしていたりです。学校に持っていく弁当は、麦飯に梅干しを入れたもの。たまたま、野山にある食べられる植物は、こそり持ってきた塩をかけて友達と一緒に食べたように、それか、その美味しかったケツです。でも、そのよくなものを食べていて、お腹をこわして、夜も赤痢とかの病気がかかると、七つな友達も、ひたひたです。
そして、一月に二回、村から食料品の配給があり、イリコや調味料が配られたそうです。イリコは一人一匹というとても貧しい生活になていたようです。
夜になると三日に一度空襲警報があり、家の明かりを消して防空壕へ下り、と解除になるのを待って、白壁の家は黒でぬるよう、命令されていいたそうです。
学校では、ほとんどが苦しい家庭の人で、風呂敷に教科書を抱き、わらじ、防空頭巾、モンペス、のようなものを着て行き、校門に近づくこと、ほじょうをとれ、と言われるので、兵隊さんの歩き方を、して、敬礼と言っていました。体育では、業人形や青竹の槍で突き合っていたようです。
岡山空襲の時には、黒い雨が降

るのを見つめ、濡れ毛布を被った女性が裸足で家の前を通り、時は泣いてしまっていました。明泉さんが12歳の時、戦争が終わり、働いて、収入を得られるようになり、貧しさは、たんと減っていき、今があるとのことでした。
私は、貧しい人のいない、明るい世界がいつかできることを祈っています。



まとめ 編集後記

私は、この学習を経て、さまざまな学びを得られたと思っております。
絵画疎開の苦難、戦争の苦しい記憶、空襲の悲惨さ、そして平和とは何か。
私は、明泉さんや大原美術館の方の話を聞いて、平和について考えることが増えました。今の日本、今の世界は平和なのか、などを考えています。
その答えは、まだ出ていませんが、いつか答えを出すために、これからもう考えようと思っております。

【児童感想(新聞より)】

・戦争はやっぱり人と人、国と国が争い、最後には悲しみだけがうまれてしまうと思った。

・戦争が起きると何人もの人が亡くなり苦しい思いをする。なぜ日本はこんなことが起きるのに戦争をしたのか誰にも分らないけど、戦争はしてはダメとこの話でよく分かりました。ロシアやウクライナでも何人もの人が亡くなり、苦しんでいます。平和のためにできることをぼくは考えていきたいです。

・私は大原美術館に行く時、「どんな絵があるのかな」と思いました。大原美術館の中に入ったら、色々な絵があったり銅像がいっぱいかべにはられていました。次々絵を見ていたら自分はこう思いました。「自分も早く絵が上手になったらいいな」と思いました。大原美術館で一番きれいだったのはモネのスイレンがきれいだったです。

・私は明楽さんや大原美術館の方の話を聴いてから平和について考えることが増えました。今の日本、今の世界は平和なのか、などを考えています。その答えは未だにでていませんがいつか答えを出すため、これからも考えようと思います。

・日本が戦争によって学んだことを世界にもっと発信していけば、世界は平和になっていくと思います。

2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

【アンケート調査】

児童・保護者を対象に行われた岡山市立蛍明小学校「教育に関する総合調査」(R2~7年実施分)から地域学校協働活動に関連のある項目について考察を行った。

※評価主体は全校児童・保護者、評価対象は学校教育カリキュラム全体。

※地域学校協働活動として総合的な学習の時間の具体的な見直しが始まったのは R4(2022)年度から。

◎対象：児童

設問⑳：私は、今住んでいる地域や、岡山市の歴史・自然に関心がある。

(各年) ※R2~3は⑭「自然」/⑮「歴史」の2設問に分離。それらの平均値を計算し利用。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛍明小	41.4	56.8	66.7	68	78	83.3
市平均	61.5	63.2	60.1	67.3	66	64.4

(3年間平均)

※より安定した傾向を考察するために R2~4、R5~7 の3年間ごとの平均値を計算。岡山市の平均値との差異も求めた。

	(1)R2~4 平均値	(2)R5~7 平均値	(2)-(1)
①蛍明小	55.0	76.4	21.4
②市平均	61.6	65.9	4.3
③蛍明平均-市平均	▲6.6	10.5	17.1

(様式第8号)

設問⑳：じゅ業や行事を通して、地いきのよさに気づいたり、知ったりすることができた。

(各年) ※学校独自項目のため市平均値との比較値はない。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛍明小	77.7	67	73.3	87.6	88.5	78.5

(3年間平均)

	(1)R2~4 平均値	(2)R5~7 平均値	(2)-(1)
①蛍明小	72.7	84.9	12.2

◎対象：保護者

設問㉑：あなたのお子さんは、郷土（住んでいる地域や岡山市）を愛する心が育ってきている。

(各年) ※R2~3は㉑の設問。標記内容には「子育てを通じて」の文言が入っているものを統合利用。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛍明小	72.7	78.9	74.4	86.6	84.9	77.6
市平均	76.3	75.9	76.6	76.3	76.4	77.2

(3年間平均)

	(1)R2~4 平均値	(2)R5~7 平均値	(2)-(1)
①蛍明小	75.3	83.0	7.7
②市平均	76.3	76.6	0.3
③蛍明平均-市平均	1.0	6.4	5.4

設問㉒：学校は、学校内外の人材を活用しており、お子さんの総合的な学力が伸びてきている。

(各年) ※R2~3は㉒の設問。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛍明小	90.9	77.3	82.1	97.5	88.4	87.1
市平均	80.4	79.7	76.6	74.3	75.1	75.2

(3年間平均)

	(1)R2~4 平均値	(2)R5~7 平均値	(2)-(1)
①蛍明小	83.4	91.0	7.6
②市平均	78.9	74.9	▲4.0
③蛍明平均-市平均	4.5	16.1	11.6

設問㉓：学校や地域が行う様々な体験活動により、お子さんの総合的な学力が伸びてきている。

(各年) ※R2~3は㉓の設問。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛍明小	94.6	84.8	86.3	91.4	91.8	87.1
市平均	81.3	82.6	76.6	76.5	76.9	77.4

(3年間平均)

	(1)R2~4 平均値	(2)R5~7 平均値	(2)-(1)
①蛍明小	88.6	90.1	1.5
②市平均	80.2	76.9	▲3.3
③蛍明平均-市平均	8.4	13.2	5.2

(考察)

・児童対象アンケート：設問⑳、㉔への肯定的回答の数値は、いずれもが上昇傾向にある。特に㉔「私は、今住んでいる地域や、岡山市の歴史・自然に関心がある。」の設問では、3年間の平均値の比較で20ポイント以上の上昇がある。また市の平均より6ポイント以上低かった状況から、10ポイント以上高い状況にある。

・保護者対象アンケート：設問⑮、⑲、㉔への肯定的回答の数値は、もともと高かったが、3年間の平均値比較では各項目ともに上昇傾向にある。特に⑲、㉔設問については、市の平均値より、R5～7の3年間平均値で10ポイント以上高い状況にある。

【プログラム参加者への記述式アンケート】

設問：若手学芸員の研修（気づき、意識・行動の変容など）として有用であるか？

回答者：講師（岡山市埋蔵文化センター所長 安川満学芸員にご回答いただきました）

子供たちの反応を実際に感じて、子供たちそれぞれの関心・興味のありようや行動についても知ることができたようで、埋蔵文化財センターで行う子供向けのワークショップなどにも生かされているようです。文化財課、埋蔵文化財センターは文化財を保護・保存、調査、研究する部署で、学芸員はそれぞれ考古学など専門的な教育を受けています。ですが

1、文化財の保護の主体はそれぞれの地域や持ち主さんたちであり、そのためにはその内容や価値を広く知っていただくことが重要です。こうした活動はさまざまな年齢層、様々な関心を抱いている人たちと交流し、伝えていく貴重な機会です。こうしたことは大学などの専門教育では学ばないことなので実地で経験していくことが非常に重要です。

2、歴史や文化財の枠組みは非常に幅広いものです。学芸員はそれぞれ専門分野や関心・興味のある時代や事柄がありますが、地域における文化財の保護や調査、評価が自身の関心や価値観だけに左右されてはいけません。こうした活動は我々が幅広い視点を持つことに非常に有用と考えています。

3、地域の遺跡や文化財はすでに調査や研究がなされているものはほんのわずかにすぎません。足守・大井の地域は比較的既存の研究、調査などが豊富な地域ではありますが、それでもほんの一部といえます。我々は専門分野に限らず、そうしたものを調査し情報や価値を読み取っていく力が求められます。こうした活動は実際に遺跡や文化財を調査し、それを評価し、伝えていくことをとおして行える貴重な機会と思います。

設問：ご自身に気づき、意識・行動の変容などがあったか？

回答者：学校運営協議会委員

自身が郷土史を紹介する講師として地域に向きあうプロセスで、地域の歴史についてあらためて学び知ることも多くあり、郷土に対する理解が深まるとともに、次世代に伝えていくことの大切さを再認識した。

回答者：教員

児童が学習して知識を得たその先に「現代の戦争が他人事じゃないように感じた」「自分たちにできることは戦争をしようとしたらやめようということ」と振り返ったことから、主体的に考え、関わろうとする姿への変容を見た。過去と現代の問題を伝え、つないで考えさせることの大切さを再認識した。

② どのように学び合いを取り入れたか

【地域の大人】

- ・学校教育プログラム(総合的な学習の時間)への参加(延べ人数：44名)

	学運協	支援ボラ	公民館	推進員	小計
8/27 「ESD/SDGs 研修」	7	3	3	1	14
9/6 空襲展示室	3		3		6
9/17 郷土史(柏野)	3		2	1	6
9/18 郷土史(三田)	5		3	1	9
11/26 倉敷大原家訪問	3	1	3	2	9

※総合的な学習の時間のリソースを地域学校協働活動として掘り起こしてきた。

例：2022/11/22 実施「蛍明小学校区の戦争の記憶をたどる」(参加者:16名)



日近地区:大原美術館の絵画疎開土蔵



福谷地区:伊賀節子さん「兄の手文庫」



大井地区:警防団機庫

【児童】

- ・児童同士のグループワーク、ワークショップなど
- ・世代間の学びあい：先輩の学びを知る(新聞等)、地域の大人との意見交換など

【保護者への情報発信】

- ・蛍明だより(学校長作成)により活動報告

※「蛍明だより」令和7年度7月号

足守にもすごい歴史がある！

6年生 総合的な学習の時間 歴史探検 6月10日

6年生は、地域の歴史を学び、未来につながる生き方を探る学習を行っています。

今年度は、大森遺跡(あしもり学園体育館の下)の出土遺物、粟井大塚古墳群、鼓神社、緒方洪庵生誕地を見学しました。

まず、岡山市埋蔵文化財センター所長の安川さんほか2名の職員の方が、体育館の下から出土した石器や縄文土器などを持って来て説明をしてくださいました。子どもたちは、縄文時代の石器や土器を手に持ち、約3,000年前にこの地域に人が住んでいたことを実感しました。

職員の方は、次の粟井大塚古墳群にも同行して、古墳の中を案内してくださいました。

そして、鼓神社では、日近町内会長の太田さんが待っていてくださり、祀られている神様や宝塔(重要文化財【国指定】)などについてイラストとともに説明してくださいました。

最後の見学地は緒方洪庵生誕地。岡山市近水観光振興会の田中さんが、緒方洪庵像の前で、生い立ちから功績などについて熱心に教えてくださいました。大雨の中でしたが、子どもたちは、熱心に耳を傾けていました。

この後、学んだことを各自まとめました。2学期以降も郷土の歴史について、さらに学びを深めます。



古墳は、入口は狭いけど、中は思ったより広がった。昔の人は、重たい石をどう持つかなどを考えていてすごい。

古墳にもいろいろな形があるので、調べてみたい。

この地域に、縄文時代からの歴史があってびっくりした。

※「蛍明だより」令和7年度12月②号

私たちは戦争を経験していないけど、次の人に教えてあげられるようになりたい。
6年生 総合的な学習の時間「ぼくたち、わたしたちの未来～戦争と平和について考える」
9月4・17・18日、10月10日

6年生は、地域の歴史を学び、学区に残る戦争の爪あとから、戦争について知り、考えています。

2学期は、岡山空襲展示室の木村学芸員から太平洋戦争、岡山空襲に

ついて専門的な話を聞く学習から始めました。9月4日の時点で、太平洋戦争の期間(1346日)にロシアのウクライナ侵攻の期間(1280日)が迫っていることなどを話していただき、子どもたちは過去の戦争をより身近に感じたようでした。

次に、地域在住の柏野忍さん、三田善雄さん、明楽千恵子さんから地域の戦争に関する話を聞きました。柏野さんからは、日近地区に大原美術館の絵画が疎開していたことや大井地区の鍛冶山にあった防空監視哨などの地域の戦争遺構について、明楽さんからは、配給の煮干しなど戦時中の暮らしについて教えていただきました。三田さんからは、地域の出征兵士の遺品や戦争状態のウクライナのオデーサという町で、現在、80年前の日本と同じように、文化財疎開が行われている事実(漫画「戦争日記」マリセルとパンナ・コタ文化遺産を守る、を題材に)などを教えていただきました。この学習には、地域の方や足守公民館の方も参加し、子どもたちと一緒に学んでいます。



どうしたら戦争がなくなるだろうと思った。日本だけじゃなくて、他の国も兵器を持たなければいいなと思った。実際に、空襲展示室や原爆ドームに行ってみたい。

話を聞いているだけで、戦争はこわいことがわかるのに、実際、戦争が起きたらもっとこわいことだと感じた。もっと戦争のことについて知っていかないといけないと思った。

また日本が戦争をしようとしたら、自分たちが戦争を止めないといけない。

ロシアとウクライナの戦争がまだ続いていることが、他人事じゃないみたいに感じた。買うものまで制限されていたし、食料を受け取るのも3~4時間もかかっていた。家族と離れるのもとてもつらそう。

自分たちは、戦争や空襲などを経験したことがないから、じっくり考えたこともそんなになかった。でも、この授業で原爆とはどういうもので、どのように使うかがわかってよかった。何万人の命がうばわれたことに対して、戦争なんてしなければ幸せなのになど考え、悲しくなりました。

今もたくさんの方が来ている大原美術館の作品が、どれかは絶対日近の蔵の中で戦争を乗り越えたと考え、なぜか少しうれい気持ちになります。戦争を経験してはいけど、知ることのできるのだから戦争のことについて知って、絶対に戦争をしないためにも伝えていきたいです。

ぼくたちが戦争について勉強することによって、今、戦争を耐えている人や戦争で苦しんだ人たちの力にもなると思いました。

※「蛍明だより」令和7年度12月④号

自分のためだけではなく、他の人のためにも行動することが大切だと思った。
1月26日 6年生 総合的な学習の時間「ぼくたちわたしたちの未来 戦争と平和を考える」

地域の歴史をもとに平和について学びを深めている6年生は、地域の方、足守公民館の方と一緒に語らい座大原本郎、大原美術館を見学しました。

大原本郎の門館長から、大原美術館を創設した大原孫三郎の生き方や大原家を取り組んできたことを説明していただき、孫三郎が暮らした家の美しい紅葉も見ることができました。説明の後の質問も積極的に行い、深い学びとなりました。大原美術館では、3グループに分かれて学芸員さん対話型鑑賞をしました。鑑賞するとき、作品を細部までよく見ること、思ったこと感じたことを自由に発言してよいことを教えていただきました。自由鑑賞の際には、教えてもらったことを生かして鑑賞し、こちらがはっとさせられるような感想も聞かれました。地域の方からも、学ぶ態度をほめていただき、期待の言葉もかけていただきました。



見ているところは同じでも感じ方は人それぞれ違って、一つの作品でも想像力をふくらませるといろんな意見が出てくるのがわかった。



SDGs、その時代にはなかったはずなのに、一つ目や四つ目の目標のような社会問題を見つけ、解決しようと取り組んだ大原さんの世の中の観察力と行動がすさまじいと思いました。

もともと自分のためにお金を使ってしまった孫三郎さんだけでなく、石井十次さんと出会って自分のためだけでなく、社会のために使わないといけないと思ったところが、人と人の関わりで変わっていくことができたということを学びました。

【地域への情報発信】

・足守公民館だより (188号、189号、190号) への掲載

第188号

足守公民館だより

2025年10月8日



学校と公民館を利用する地域のみながESDに結びついているのだと感じました。

公民館だより編集委員
清手 千賀子

あっちこっち 見てある記
八月二十七日(水)、岡山大学柴川弘子先生の講義「学校教育とESD」を取材しました。受講者は教員、市教委の西山氏、学校運営協議会委員、学校支援ボランティアの方々。
先ず、地域学校協働活動推進員の三田善雄氏から「地域協働学校の目標は学び合いを通じた郷土愛の育成、地域肯定感の醸成」とご挨拶がありました。講義内容のキーワードは「貧困の悪循環を断つためには教育が必要」「一人の心が戦争をおこす」「教育は人を変える。そして人が世界を変える」「ESDは人づくりの教育、自分自身と社会を変容させる学び」など学校や地域で学ぶことが求められているというお話でした。
御南中学校区の例では中学生が公民館デビューを果たして、いろんな人と出会い、大人と出会い地域との関わりを実感しているそうです。そして、大人はスクールパートナーに生徒は地域のミドルパートナーになっていくみたいです。
公民館だより編集委員
清手 千賀子

あっちこっち 見てある記
蛍明小学校の総合学習の取材をしました。
3年生は蛍やメロン・川の生き物について、4年生は高齢者福祉や蛍明太鼓、5年生は米作り体験、6年生は平和学習のそれぞれのテーマで年間を通して学習されているそうです。その中で先生方の研修や6年生の授業の様子を、2回にわたり報告します。



公民館だより編集委員
福田 瑞江



九月四日(木)、蛍明小学校六年生の「岡山空襲について」のオンライン授業を参観しました。講師は岡山空襲展示室学芸員の木村崇史さんです。オンラインだと一方的にテレビを見ている感覚ですが、子どもたちはみな真剣に聞いて、ちゃんと聞いていないとできないような質問が次々と出てきて感心しました。
私自身知らないこともたくさんあり、子どもたちだけでなく、大人も勉強しなければと思いました。



*ESD とは?→持続可能な開発のための教育

足守公民館だより(189号12/3)

「あっちこっち見てある記」

→監視塔



→手文庫を見せてくれる三田さん



～蛍明小学校6年生「総合学習～平和学習～」を参観して～

地域の戦争記憶をたどる

9月17日、地域の戦争の記憶について、大井地区の柏野忍さんの講義をきかせていただきました。大井地区にはいくつかの戦争にかかわった建物や事績が残されています。

蛍明小学校6年生が特に興味を持ったのは、鍛冶山にある監視硝(かんししょう)でした。学校の目の前にある鍛冶山の頂上に監視硝があることは驚きだったようです。この監視硝は戦争中、敵機を見つけるためだけでなく、地域を守るための見張りの役割だったのでは?との講義でした。

他にも松根油、忠魂碑、警防団、射撃場跡、消火のバケツリレーなど一つ一つを丁寧に説明されました。みなさん初めて知る言葉だったのではないのでしょうか。

戦争の遺物は戦後破却するよう国からの指令があったそうです。しかし、小さな町の遺物は目につかず残されたとのことです。

終わりに6年生の一人が「戦争は地域の人たちも巻き込まれる怖さと、松根油は今では考えられない」など発言してくれました。小さな町の小さな記憶も、集まれば大きな記憶と記録になる。二度と戦争を起こさないため、風化させないために、語り継がなければならない大切な記憶だと思いました。

公民館だより編集委員 山本純子

地域に残る戦争の記憶について

9月18日に6年生の教室へお邪魔しました。22人の児童たちは各自机の上にタブレットを置き、講師の三田善雄さんのお話を真剣に聞いていました。

福谷地区の「伊賀さんの兄の手文庫」、高田地区(日近)の「大原美術館絵画疎開」、そして「ウクライナ・オデーサ美術館の展示品疎開(漫画)」について学習しました。

特に心に残ったことは、実物の手文庫を見ながらのお話で、当時19歳だったお兄さんが入隊前日の、昭和19年8月31日、伊賀さんの家族にあてた色紙や手紙・日記が収められていて、やりきれない気持ちが伝わってきました。伊賀さんはお兄さんが帰ってくるまで、この手文庫は開けないで待っていました。しかし2年前に地域の人と一緒に平和学習を学ぶ蛍明小学校の児童たちと出会ったことがきっかけで、手文庫を開ける決心がついたそうです。学びの場と人と人の心のふれあい生まれ、その出会いが前に進む大きな力となったようです。

児童たちは全員タブレットでそれぞれの感想を共有していました。

私自身も日常生活の中から平和について身近に学ぶこと、話し合うことの大切さを感じました。
公民館だより編集委員 清手千賀子

蛍明小学校6年生総合的な学習の時間
～郷土史・平和学習～に同行して

語りい座大原本邸・大原美術館見学

散りかけた紅葉も美しい11月26日晚秋のことです。まず始めに「大原本邸」の門利(もんり)館長より、創設者の大原孫三郎氏について伺いました。孫三郎氏は1930年、日本最初の西洋美術館を創設されました。それは多くの人に「西洋のすばらしい絵画を知ってほしい」という強い願いからでした。



孫三郎氏は他にも、生活困窮者への支援、進学困難な学生への奨学金貸与、日本最初の孤児院を岡山に作った石井十次氏への支援などの救済活動、また小作農家の支援を図り自作農家を増やして社会に還元、紡績会社を継いでからは工場労働者への教育支援、農業研究所・社会問題研究所・労働科学研究所の設立、そして病院開設などの防貧活動など、社会に様々な貢献をされたことなどの説明を聞きました。6年生のみなさんは熱心にメモを取っていました。孫三郎氏の業績は、まさにSDG'sそのものです。

さて、昼食の後はいよいよ大原美術館の見学です。3組のグループに分かれて、寺元学芸員さんたちから「対話型鑑賞」のワークショップを受けました。数々の名画を学芸員さんと共に鑑賞し、感じたこと、思ったことを率直に話す6年生のみなさん、大人では気づかない視点をたくさん教えていただきました。

孫三郎氏が100年前に成し遂げた諸活動をSDG'sの視点から振り返るとき、今を生きる我々に何ができるか、平和を守り続け、それを未来につなげるには何をすべきか、それには私たちが考え続けること、より良い教育が何より大切であることなどをしっかり学んだ1日でした。

蛍明小学校のみなさん、戦時中に農家の蔵に疎開した大原美術館の名画をきっかけに、大原美術館までたどり着いたみなさんの学習の足跡を決して忘れません。学芸員の方々、小学校の先生や関係の方々を中心に御礼申し上げます。

公民館だより編集委員 山本純子

あっちこっち見てある記

足守地域にある古墳のひとつ

日近 安養寺古墳(仮称)

足守に古墳があることを知らない人もいますし、知っている人も粟井大塚古墳群を思い浮かべるくらいの方がほとんどだと思います。でも



これ以外にもたくさんの古墳があるんです。以前見てある記で紹介した『庄田・天神塚』も宮の岨(たわ)古墳というそうですし、福谷や高田・下足守にも数え切れないほどあります。中には、発掘調査後埋め戻されたものや、岡山空港を造る際、移築されたという変わり種もあります。

藪をかき分けて行かなければならない所が多い中、今回は比較的行きやすい日近安養寺の上にある古墳に、倉敷在住のコフニスト・和気誠二さんに案内をお願いして行ってきました。安養寺の境内を通り抜けさせていただき、東屋の手前から山に入り50mほど上がった所にあります。少しこんもりしているだけなので、ここが古墳と教えられなければ素人には見分けがつかないくらいです。名前もない古墳なので和気さんが命名されたそうですが、吉備郡史には『安養寺上ノ塚』として掲載されているそうなので、由緒ある古墳なんですよね?地元の人にも知られていないのは、もったいないですね。なお、行ってみようと思われた場合、途中にあるイノシシ防止柵の出入りには十分ご注意ください。

公民館だより編集委員 福田 瑞江



この内部

・足守公民館での学習成果(新聞)の展示(2026/2/27~3/31@公民館1Fロビー)



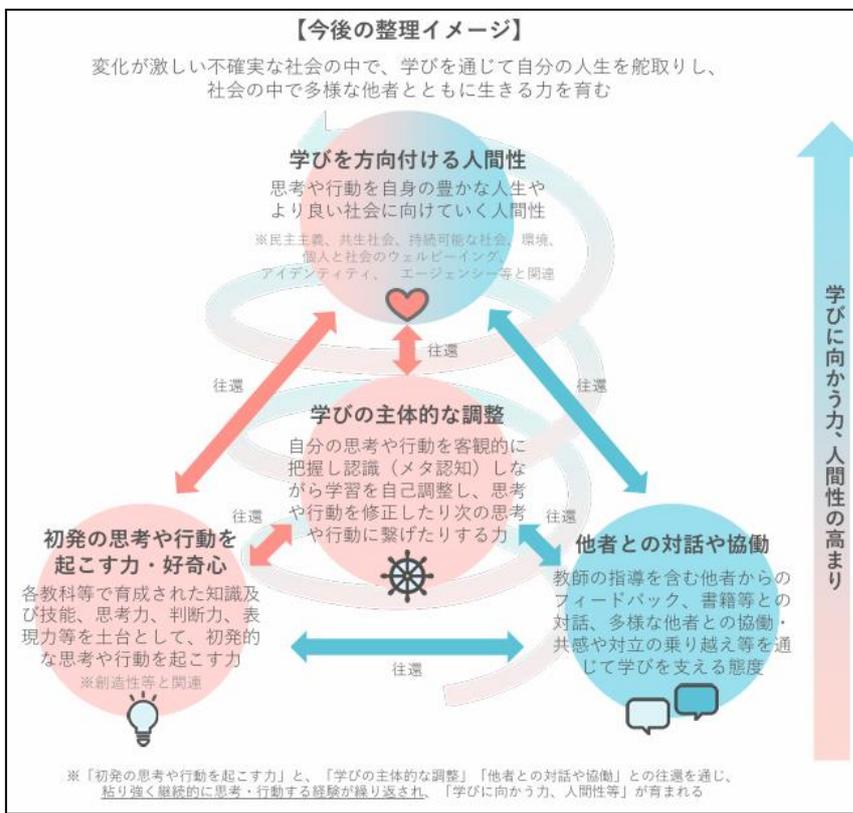
- ・活動報告:R6(2024)年度～
2024/11/28「地域学校協働活動推進員情報交換会」(岡山市教育委員会生涯学習課)
2024/12/9「足守ことぶき教室」(岡山市足守公民館)
2025/11/28「足守人権問題研究会」(岡山市福祉交流プラザ大井)
2026/3/8 第 50 回山陽新聞「桃太郎賞」受賞式(対象:3~6年生総合学習)
2026/3/30 大井地区高齢者サロン「花見会」(予定)
R6・R7 年度「文学創造都市おかやま参加事業」(ユネスコ創造都市ネットワーク HP)
※R7 年度活動報告は、文学創造都市オデーサ(ウクライナ)の SNS でもシェアされる

【研修】

- ・「ESD/SDGs」研修
講師:柴川弘子先生(岡山大学 ESD 協働推進センター助教)
2025/08/26:学校・地域協働開催/参加者:30名(教員/学運協委員/学校支援ボラ/足守公民館だより編集委員/推進員)
2026/02/26:学校開催/参加者:8名(教員/推進員:総合的な学習の時間のふりかえり)

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

地域と学校とが共通認識を深めながら、連携協働を進めて行くことが、学びと実践を結び付ける工夫としても大切だと考えている。そこで例えば下記のように、次期学習指導要領に向けて現在文部科学省で議論・整理されつつある「学びに向かう力、人間性」についての整理イメージ図(出典:文科省中央教育審議会初等中等分科会教育課程部会教育課程企画特別部会「論点整理(ポイント:概要版)」/令和7年9月25日)に即して、本活動が着目している視点(工夫)の整理を試みた。



① 「学びの主体的な調整」力への着目

・ 学び(自己認知・社会状況)を客観的(相対的)に把握する認識力への着目

【児童感想例】 ※専門的な評価を受けているものではない(参考資料として具体例を提示)

- ・ この地域に、縄文時代からの歴史があってびっくりした。
- ・ ロシアとウクライナの戦争が続いていることが他人事じゃないみたいに感じた。
- ・ なにを描いているかわからない絵など少しありました。その絵について少し考えてみるとかく物は自由だし自分らしさが出るようになる絵だし、なにかつたえたかったのかな?と思いました。
- ・ 日本が戦争によって学んだことを世界にもっと発信していけば、世界は平和になっていくと思います。

・ 学び(思考)を修正したり、次の学び(思考・行動)につなげようとする認知力への着目

【児童感想例】

- ・ 戦争を経験した人たちがだんだん減っていつか、少しでも次の人に、戦争はしてはいけないこととか、戦争の怖さなどをおしえられるように、たくさんのお話を頭の中に入れておきたいと思いました。
- ・ 私は明楽さんや大原美術館の方のお話を聴いてから平和について考えることが増えました。今の日本、今の世界は平和なのか、などを考えています。その答えは未だにでていませんがいつか答えを出すため、これからも考えようと思います。

② 「初発的な思考や行動を起こす力・好奇心」への着目

・ 学びの必然性への着目

※郷土史として太平洋戦争を学ぶ(地域性)

【児童感想例】 岡山空襲のため美術館に美術品を置いておけないと判断し、日近にある農家さんの家の蔵にそかいされました。美術館が絵画を守らなければならない理由は「文化財や芸術作品は一度失われると二度と取り戻せない人類の宝である」という認識と、「未来の世代に文化を引きつぎ、平和な社会を再建するための精神的な拠り所とする」という二つの理由です。岡山空襲中の大原美術館は、いつこちらに来るのかや、いつこの絵が焼ける危機になるかわからないドキドキの中でそかいや、大原美術館の運営をしていて、どれだけのことがあっても、この絵画を受けつながらなければという気持ちがとても伝わってきました。

※ウクライナ・オデーサの美術館での「美術品疎開」を学ぶ(テーマ性・同時代性)

【児童感想例】 ロシアやウクライナでも何人もの人が亡くなり、苦しんでいます。平和のためにできることをぼくは考えていきたいです。

・ 各教科学習で積み上げられている知識及び技能、思考力、判断力、表現力の総合的な発揮機会としての認識を持つ

※本校で特に力を入れてきた「表現力」により示された「児童の言葉」を中心に置いたプログラムづくり (内発性・主体性)

・ 好奇心をくすぐる工夫

※実物(土器等)、体験者の語り、漫画、写真、絵画、映像など多様なメディアの活用



埋蔵文化財センター所蔵品



語り部直筆の絵



漫画「戦争日記」

※参加型学習形態など学習方法への工夫

③「他者との対話力や協働」力への着目

・対話力の向上

※対話型鑑賞 WS、グループワーク等の方法の工夫

【児童感想例】

- ・たいわがたかんしょうをして、みるたびにいけんが変わったり、どんどんと新しいいけんがでたりして、げいじゅつは、おくが深いと思いました。
- ・見ているところは同じでも感じ方は人それぞれ違って、一つの作品でも想像力をふくらませるといような意見が出てくるのがわかった。

※世代間の意見交換の機会の創出



漫画「戦争日記」WS への参加(9/18)



大原美術館・語り座大原本邸訪問への同行(11/26)

・日頃の身近な行動(学級活動等)や空間(教室等)を平和づくり実践・実践の場として意識化

④「学びを方向付ける人間性」への着目

・本プログラムを通して得た思考(学び)を自身の豊かな人生やより良い社会に向けていく
(実践)人間性の滋養への認識

※本学習プログラムを「未来につながる生き方を探る学習」として位置づけモデル（大原孫三郎など）を提示

【児童感想例】

- ・SDGs、その時代にはなかったはずなのに、一つ目や四つ目の目標のような社会問題を見つけ、解決しようと取り組んだ大原さんの世の中の観察力と行動がすさまじいなと思いました。
- ・大原さんのような大きな事はできないだろうけど、それでも小さな事からコツコツと社会のためになりそうなことをやっていきたい。

※学習対象を SDGs の視点から学ぶことで、自身が「持続可能な社会づくりの担い手」であるという認識を高める

【児童感想例】孫三郎は SDGs のような社会問題について考えていた。だから次は自分たちが考える番だと思う。

※ユネスコ理念、2023 年ユネスコ教育勧告への着目(「コンヴィヴィアリティ(自立共生、自律共働)」など時代性を反映するキーワードへの理解を中心に)

⑤「①～③」の往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、④が育まれるという認識への着目

=====
例えば上記のように「本活動が着目している視点(工夫)」を整理するという「工夫」を通して、「地域と学校とが共有認識を深めながら、参加者の具体的な気づき・意識・行動の変容への萌芽の寄り添いあいを、より中期的で広域的な『学びあい』の循環として顕在化させることを通して、参加者の主体性や自己肯定感・有用感にも働きかけること」(申請書掲載内容)がより深化し、実践への後押し(駆動)につながっていくのではないかと考える。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

【目標】本事業は R3 年度に同協議会の「地域学校協働活動」として開始した「総合的な学習の時間の質を高める活動」の一環として実施しており、本事業に関わる大人たちも共に学びあうことを通じて、地域全体の「郷土への愛着」や「地域への肯定感」をより高め、地域づくりへの「主体性」を培い、より深めることを目標としている。（申請書掲載内容）

【評価】

1) 「郷土への愛着」・「地域への肯定感」について

【アンケート調査：岡山市立蛭明小学校「教育に関する総合調査」（令和 2～7 年実施分）

・「郷土への愛着」

設問⑩(対象：保護者)：あなたのお子さんは、郷土（住んでいる地域や岡山市）を愛する心が育ってきている。

(各年) ※R2～3 は⑩の設問。標記内容には「子育てを通じて」の文言が入っているものを統合利用。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛭明小	72.7	78.9	74.4	86.6	84.9	77.6
市平均	76.3	75.9	76.6	76.3	76.4	77.2

(3 年間平均) ※より安定した傾向を考察するために R2～4、R5～7 の 3 年間ごとの平均値を計算。岡山市の平均値との差異も求めた。

	(1)R2～4 平均値	(2)R5～7 平均値	(2)－(1)
①蛭明小	75.3	83.0	7.7
②市平均	76.3	76.6	0.3
③蛭明平均－市平均	1.0	6.4	5.4

設問⑳(対象：児童)：私は、今住んでいる地域や、岡山市の歴史・自然に関心がある。

(各年) ※R2～3 は⑳「自然」/㉑「歴史」の 2 設問に分離。それらの平均値を計算し利用。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛭明小	41.4	56.8	66.7	68	78	83.3
市平均	61.5	63.2	60.1	67.3	66	64.4

(3 年間平均)

	(1)R2～4 平均値	(2)R5～7 平均値	(2)－(1)
①蛭明小	55.0	76.4	21.4
②市平均	61.6	65.9	4.3
③蛭明平均－市平均	▲6.6	10.5	17.1

保護者対象「設問⑩」の調査数値は全体的に高い傾向にあるが、(3 年間平均)では、「①蛭明小」の項目で、「R5～7 平均値」が、「R2～4 平均値」を 7.7 ポイント上回り、上昇傾向にある。また「③蛭明平均－市平均」の項目では、「R2～4 平均値」で市平均を 1.0 ポイント上回り、「R5～7 平均値」で市平均を 6.4 ポイント上回っている。そして③の「R5～7 平均値」は「R2～4 平均値」を 5.4 ポイント上回っており、岡山市全体の傾向と比べても、上昇傾向にあると言える。

児童対象「設問⑳」の調査数値は、(3 年間平均) 値の比較で 20.4 ポイント上回り、上昇傾

向にある。また「③蛍明平均 - 市平均」の項目では、「R2~4 平均値」で市平均を 6.6 ポイント下回っていたが、「R5~7 平均値」では市平均を 10.5 ポイント上回っている。そして③の「R5~7 平均値」は「R2~4 平均値」を 17.1 ポイント上回っており、岡山市全体の傾向と比べても、上昇傾向にあると言える。

・「地域への肯定感」

設問⑳(対象：児童)：じゅ業や行事を通して、地いきのよさに気づいたり、知ったりすることができた。

(各年) ※学校独自項目のため市平均値との比較値はない。

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)
蛍明小	77.7	67	73.3	87.6	88.5	78.5

(3 年間平均)

	(1)R2~4 平均値	(2)R5~7 平均値	(2)-(1)
①蛍明小	72.7	84.9	12.2

児童対象「設問⑳」の調査数値は、(3 年間平均) 値の比較で 12.2 ポイント上回り、上昇傾向にある。(学校独自の調査項目のため市平均との比較はできない)

(考察)アンケートの対象は、申請した本プログラムのみが対象ではないものの、設問⑮(対象：保護者)の結果から、児童の「郷土への愛着」が育ちつつある状況があると考えられる。また設問⑳(対象：児童)の結果から、児童への「地域への肯定感」が育ちつつある状況もあると考えられる。そしてまた、これらの認識の変化は「設問㉑」(対象：児童)の「地域・市全体の歴史・自然への関心」への高まりとの相関性も強いのではないかと考えている。

【プログラム参加者への記述式アンケート調査】

設問：「郷土への愛着」や「地域への肯定感」の高まりに有用であるか？

回答者：講師（岡山市埋蔵文化センター所長 安川満学芸員）

学校で本格的な歴史を学習する時期には早いですが、教科書で習う歴史・日本史と地域の歴史が直結したものであることを感じることは非常に重要だと思います。

教科書や本の中に書かれている内容が、一気に自分の身近なものになり、地域・郷土が列島や日本史の中に位置付けられることとなります。また、実在感の薄い物語の中の物事や人物が身近な存在に感じられる機会となると思います。わたくしは愛知県出身なのですが、小学生のころ地元松尾芭蕉の句碑（千鳥塚・地元で行われた句会に際し芭蕉生前に唯一建てられた句碑）があることを知り、歴史上の人物の足跡が地元に残ることを誇りに感じるとともに、歴史上の人物の存在が実体があるものとして実感できたことを覚えています。

回答者：学校運営協議会委員

この地域がどういう地域なのかということ、歴史を通して学ぶということが非常に大切だと思う。郷土には争いの歴史もあるし、現在も世界各地で紛争もあるなかで、郷土への理解を通して「相手を思いやる、戦争を起こさない」という思いを育てていくことが大切で、それは世界中どこにいても、どこの地域でも大切にされるべきだと思う。そしてこの地域では、学校と地域が協力しながらこういう教育の機会をつくっていることは素晴らしいことだと思うし、そのことを通じて児童の「郷土への愛着」・「地域への肯定感」の高

まりにもよい効果が出始めていると感じている。

回答者：教員

ローカルがグローバルへつながっていること（明楽さんの戦争体験・地域の戦争遺構→岡山空襲・絵画疎開→オディーサの絵画疎開）を理解することで、この地域が担った、この地域だから担えたという思いにいたっている点で、児童の「郷土への愛着」・「地域への肯定感」の高まりに対して、大変有用なプログラムであった。

2) 地域づくりへの「主体性」について

設問：地域づくりへの「主体性」を培うことに有用であるか？

回答者：講師（岡山市埋蔵文化センター所長 安川満学芸員）

地域振興は歴史や文化の継承だけではありませんが、地域の歴史・文化・個性を知り、伝えることはその中で非常に重要なことだと考えています。人口減少や都市部への人口の集中に伴って、地域はそこではぐくまれた歴史や文化が根こそぎ失われる危機にある現状です。地域のことを知り、関心を抱き、それを守り次世代に伝える人材を育成することが理想ですが、知る人自体が誰もいなくなってしまう危機の中、少しでも知る部分について貢献できるのではないかと考えています。

回答者：教員

児童は、太平洋戦争とは何だったのか、その戦争体験を知ることで、「どうしたら戦争はなくなるのか」「戦争を経験していないけど知ることはできるのもっと知り、伝えていかなければならない」という思いをもった。さらに、大原孫三郎の生き方から SDGs を読み取り、人が人との関わりの中で変わっていくことを学んだ。これらのことは、まさに児童の主体性を高めたといえる。

足守公民館だより編集委員

(公民館だより掲載感想よりピックアップ/ご自身の主体性の変化という視点から)

- ・私自身知らないこともたくさんあり、子どもたちだけでなく、大人も勉強になりました。
- ・私自身も日常生活の中から平和について身近に学ぶこと、話し合うことの大切さを感じました。
- ・二度と戦争を起こさないため、風化させないために、語り継がなければならない大切な記憶だと思いました。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

【今後の課題】

- ・地域(学区)全体への波及効果を高める
- ・プログラム間(1⇔2・3 学期、5 ⇔6 年、小⇔中学校)の接続性をより深める

【今後の展望】

- ・地域(学区)全体への波及効果を高めるための模索

※本プログラムを公民館等の生涯学習プログラムとして展開（再び：学校→地域）

※保護者の参加機会の拡充

※児童のグループワークに地域の大人も参加し意見交換する機会を増やす

※「文学創造都市おかやま」事業との連携を深める(ユネスコスクール活動としても)

(様式第8号)

・ プログラム間の接続をより深めるための模索

※1学期「郷土史」から2学期「郷土史⇔平和・SDGs学習」へ、児童の意識の連続性をより深める工夫を模索

※学年間(5年⇔6年)の接続性をより深めるため、5年生3学期の総合学習(稲づくり)プログラムでの工夫を模索

※学校間(小学校⇔中学校)の接続性をより深化させるため、6年生の3学期の体験活動等のプログラムでの工夫を模索

(別途2/26の実施した「ESD/SDGs研修」(総合学習のふりかえり)で講師の柴川弘子先生からいただいた、これらの課題解決に資する具体的なアドバイスが、R8年度の学習計画づくりに反映されている)